

平成30年度 岐阜県立東濃高等学校「学校評価アンケート」の結果

【アンケート結果の表記方法】

- ①生徒：肯定的な回答 A 及び B と否定的な回答 C と D が 50%以上、わからないの回答 E が 25%以上を網掛けで示した。
- ②保護者等：肯定的な回答 2/3 以上（67%）と、否定的な回答 C 及び D 1/3（33%）以上、わからないの回答 E が 1/4（25%）以上を網掛けで示した。

1 アンケート結果より（生徒）

各評価項目に対して、A「よくあてはまる」B「ややあてはまる」と肯定的な回答をした生徒が大変多くいた。評価項目が全部で 38 項目あるなかで昨年度 8, 9 の項目で A と B の肯定的な回答が 50%を下回っていたが、すべての項目において平成 30 年度は 50%以上（全項目平均 82%）の結果となった。

また、アンケート項目に対して E「わからない」と回答する生徒数も、昨年度は 5 項目について 25%（全項目平均 18%）を超えていたが、本年度は 25%（全項目平均 7%）を超える項目は 1 項目も無かった。

以上より、学校の教育目標や教育方針等について、生徒が十分理解していると考えられる。

平成 29 年度と平成 30 年度の集計結果を比較し、分析すると次のような課題や成果が考えられる。

〈課題〉

- 評価項目 (11)「学校・学年等から発行される「たより」等には、生活や進路について考える内容がある。」(A と B85%, E24%)

上記項目に関しては、平成 29 年度のデータ(A と B50%, E24%)と比較して、回答 A B のポイントは 35%も上昇している一方、「わからない」の回答 E が、すべてのアンケート項目の中で最大の 24%（20%を超えている唯一の項目）となり昨年度と数値に変化が無く、学校から生徒に対して発信している生活や進路についての大切な情報の意味が、全生徒の 4 分の 1 に理解されていないことが残念である。今後は、学校からの情報発信力の強化を行うとともに、生徒の情報理解能力の育成を推進する。

学校から発信・配布している家庭への連絡や案内については、例年と数量・内容の両面とも差異はほとんど無いことより、発信・配布量について問題が無いと考え、今後は生徒に対して、配布プリントや配信メールについての重要ポイント等の解説を十分行った後、発信・配布する。特に、1 年生に E と回答をしている生徒が多いことより、連絡内容の確認並びに事前解説を重点的に行い周知徹底を図る。1 年次は、高校生活における基礎的な生活習慣の確立のために、家庭における報告・連絡・相談等についても疎かにしないように指導していく必要があると考える。

〈成果〉

- 評価項目 全 38 項目中 25 項目において肯定的意見が 80%を超えており、項目 (6,34,35) においては 90%の結果であった。(A と B：全項目平均 81%)

生徒の健康・安全に関しては、学校保健計画・学校安全計画を組織として系統的・体系的に整え、生徒の生命を尊重し、食育を含め体力の向上指導並びに心身の健康の保持増進に教科横断的に取り組んでいる。

また、交通事故・不審者対応、非常変災時におけるリスクマネジメントに対する安全教育を、日々実践している。以上の点から本年度も高い肯定的意見が得られたと考える。

今後は、東海・南海・東南海地震や他の自然災害からの危険回避（評価項目 25）も含め、学校教育活動全体において安全で安心な社会づくりに貢献できる生徒の育成に取り組む。

生徒会が中心となって実施している MS リーダーズ活動、地域清掃活動では、部活動単位での参加やボランティアで参加する生徒が、年を追うごとに増えている。また、地域行事などにも積極的に参加し活躍する生徒も多くなり。学校として地域のコミュニティスクールとしての貢献活動ができていないのではないかと考える。今後もリーダーとなって活躍できる生徒の育成に継続して取り組む。

全職員の共通理解のもと、学校生活だけでなく社会人としての基本ともなる「あじみ」ができる生徒を育成し、社会における規範意識並びに学業の向上を目指す。

「あじみ」ができる生徒の育成こそが本校の教育の根幹となると取り組んでいる内容であり、現在、それが生徒に浸透しつつあると感じる。今後も指導を継続する。

外国人生徒に対しては、基礎的な学習内容から日本語の教育まで丁寧な授業が進められていることで、授業内容を理解できる生徒の割合が年々多くなってきている。このため肯定的な回答が多かったと考える。

さらに、外国人生徒に対しては上級学年になれば当然授業内容も難しくなるため、基礎的な学力が定着していないと授業での内容が理解できないという状況になってしまう。その点についても配慮しつつ、かつ妥協することなく学習に取り組ませている。

外国人生徒に限らず、全生徒に対して、個別対応も含め、どの生徒にも分かる授業（授業のユニバーサル化）の工夫と、生徒一人一人の学力向上のための実践を進める。年間を通して学習週間の充実、家庭学習の指導などの取り組みを、さらに推進する。

2 アンケート結果より（保護者・学校運営協議会員）

評価項目 39 のうち、平成 30 年度の A「よくあてはまる」 B「ややあてはまる」と肯定的な回答の割合は、全項目平均 73%の結果となった。全評価項目 39 のうち平成 29 年度に 1 項目が肯定的な回答 2/3(67%)を達成できなかったのに対し、平成 30 年度では 7 項目で下回った。

アンケート結果から、保護者・学校運営協議会員の方々の学校教育活動に対する考えや理解に対する分析を行い、課題と成果、今後の取組について以下に記述する。

〈課 題〉

- 評価項目 (7)「学校は保護者（地域）が授業や学校行事等を参観する機会をよく設けている。」（A と B：64%）(8)「学校は保護者（地域）の悩みや相談に適切に対応してくれる。」（A と B：66%）(20)「学校は個々の生徒に対して適切な教育相談を行っている。」（A と B：64%）(21)「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している。」（A と B：61%）(22)「学校は体罰の防止に努めている。」（A と B：64%）(33)「学校は授業中、一人一人のよさや努力を認めるよう努めている。」（A と B：63%）

上記の項目(7)については、平成 29 年度の A と B の合計が 71%、平成 30 年度の A と B の合計が 64%、項目(8)は、平成 29 年度 67%、平成 30 年度 66%、項目(20)は、平成 29 年度 80%、平成 30 年度 64%、項目(21)は、平成 29 年度 75%、平成 30 年度 61%、項目(22)は、平成 29 年度 71%、平成 30 年度 64% 項目(33)は、平成 29 年度 77%、平成 30 年度 63% と肯定的な回答の減少が見られた。この数値の減少の背景には、各項目における E「わからない」と回答された保護者の割合(6 項目の平均 E21%)が多いことも影響していると考えられる。

今後の改善策としては、保護者や地域の方々が来校される機会をとらえて現在の学校の教育活動内容を伝えたり、生徒の様子を話したり、学校行事・学校教育資料等を配布するなどして情報発信に努めるとともに、日頃から保護者との連絡をさらに密にすることで信頼関係を築くことに努める。また、保護者の学校行事の積極的・主体的な参加を促し、学校の活性化にも大いに繋げる。

- 評価項目 (29)「本校では、部活動が活発に行われている。」（A と B57%）

平成 27 年度この評価項目の A と B が 39%と低い回答であったが、平成 28 年度 59%、平

成 29 年度 59%、平成 30 年度 57%とポイントは、平成 28 年度以降 50%以上を維持している。しかし、積極的に参加できない生徒、途中でやめてしまう生徒、所属しない生徒も多いことから、強い意志をもって活動する生徒が、まだまだ少ないのが現状であると考え。こうした実態を少しでも打破し、部活動への生徒の積極的・主体的な加入や参加を促し、学校の活性化に今後繋げたいと考える。

平成 30 年度の結果としては、ウエイトリフティング競技での全国大会出場、ロボコン部の全国大会出場と大変活躍した生徒もいる。この現状をさらにアピールし、学校の活性化に繋げたいと考える。その他に平成 30 年度より書道同好会が発足し活動している。

〈成 果〉

- 評価項目 (1)「学校の教育目標である「知・徳・体の調和の取れた将来有為な人材を育成する」が達成できるように努力している。」(A と B : 80%) (4)「単に学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとする校風が感じられる。」(A と B : 80%)
- 評価項目 (10)「学校は、PTA (育友会) や部活動講演会等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表している。」(A と B : 82%) (11)「「すぐメール」(一斉配信メールサービス) は、有効に活用されている。」(A と B : 91%) (12)「学校・学年等から発行される「たより」等をとおして、主体的に進路を選択し、決定できる能力の育成を図っている。」(A と B : 82%)
- 評価項目 (13)「学校を訪問したり、電話した時の学校職員の対応 (明るい挨拶や丁寧な話し方) が、適切である。」(A と B : 80%)

項目(1, 4)は教育方針・学校経営に関わる項目で、項目(10,11,12)については家庭との連携や公費・私費などの経費についてとなっている。学校の根幹となるこれらの項目に対して、平成 30 年度も肯定的な評価のポイント(項目 1 : 80%, 項目 4 : 80%, 項目 10 : 82%, 項目 11 : 91%, 項目 12 : 82%)が高かった。

以上のデータからも、学校の生徒に対する働きかけや指導・支援の在り方並びに外部対応について、学校組織として職員が一体となり共通理解・共通認識・共通指導のもと着実な成果を上げつつあることが、評価されているものと考え。

また、これらの項目について高評価を受けている他の要因としては、PTAの役員の方を中心に学校行事への理解と非常に多くの協力や支援を頂いていることや、学校行事を参観して頂ける保護者が年々増加し、生徒の良さや生徒の取組を直に感じることを通して生徒の成長の過程を評価していただけていることが考えられる。

今後も学校での生徒の様子を情報発信しながら学校行事への理解と協力を依頼するとともに取組の過程を大切にしながら指導を行い生徒一人一人の成長に繋げていく努力を続ける。

- 評価項目 (26)「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者(地域)に対策マニュアルが知らされている。」(A と B : 80%)
- 評価項目 (36)「本校は、「あいさつ・時間を守る・身なりを整える」指導に取り組んでいる。」(A と B : 80%)

項目(26)は災害時の対応、項目(36)は学校独自項目である。これらの項目は「第一に命を大切に考えること」と「人として基礎基本となる社会性を身につけること」を意図した項目である。これらの項目が高評価を受けている理由としては、現在の気象や災害発生状況並びに、進路決定における大切なマナーやモラルについて、やはり大切であるという事実他にないものであると考え。

今後もアンケート結果を踏まえた上、保護者、御嵩町役場、縁塾(NPO 法人)、可児市多文化共生センターフレビア並びに大変多くの地域の方々の協力のもと、地域のコミュニティスクールとして地域に貢献することができる生徒の育成に努める。